

観光施設の売上、集客向上に寄与する 景色を撮影できる次世代望遠鏡

dXscope(ディエックススコープ)は、観光集客施設向けのスマート望遠鏡。導入により、収益向上、集客強化につながる。販売するのは(株)DXスコープ。2023年12月中旬に本リリースする予定だ。

特徴は、40倍光学レンズ搭載で望遠鏡としての十分な性能を持ち合わせつつ、眺望の撮影や録画ができる点。撮影したデータは表示されるQRコードを読み込み、携帯する端末(スマートフォンなど)に保存できる。

また、画角内の観光地や施設をAIが自動で認識し、画面に施設名称などのテキストを表示することも可能。さらに、広告デジタルサイネージ(オプション)も搭載する。

利用にあたっては、通常の望遠鏡と同様で、支払い後90~120秒程度(調整可能)鑑賞する形。利用中に撮影、録画が可能だ(回数制限あり)。なお、キャッシュレス決済のみの対応。



引き伸ばして拡大するデジタルズームではなく、焦点距離を合わせて拡大する光学ズームのため、鮮明な画質のままズームできる



電源と通信環境などが整っていれば設置可能。なお屋外設置にも対応

価格は、1台約54万5,000円~(変更の可能性あり)で、現行の望遠鏡価格の半額程度に設定。設置場所や台数・規模によって変動はあるが、最短で1週間程度で設置できる。

代表取締役の今井丈雄氏は「望遠鏡が設置してある施設では、来場者数の約2%が望遠鏡を利用します。1回300円だとしても早期で

の投資回収が見込め、売上増に役立てる」と話す。また、インバウンドや10~20歳代の若年層への訴求にも期待でき「新規顧客層の獲得にもつながる」(今井氏)という。

今後はすでに望遠鏡を設置している観光施設や展望施設を中心に導入を進め、24年までに300台の導入を目標にする。